

DAY 1・AUGUST 5

恥じないということ

読みましょう：創世記 3

「そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。」神である主は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」¹⁰彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」

創世記 3:8-10

じっくり考えてみましょう

他人に知られたくないと感じることはなんですか？ そのことが、自分が恥としているものであることが多いです。恥を理解するためには、そのすべてが始まったエデンの園から始めなければなりません。

エデンの園は、アダムとエバが神様との完全な交わりを楽しむ楽園でした。そこで彼らは裸でしたがそれを恥ずかしいとは思わず、自由に神を礼拝することができていました。

しかしながら、アダムとエバが神の命令に背いて善悪の知識の木の実を食べたことで、彼らは裸であるということを恥とを感じるようになりました。そして彼らは神に自分の犯した不従順さを告白し責任をとろうとはせず、むしろ自分たちの体をいちじくの葉で覆いました。

アダムとエバのように、私たちも自分をよりよく見せたいという願いを持っています。しばしば私たちは社会的地位、成功、知識の豊富さなどを自分自身の覆いとするのです。私たちは罪から来る恥に対して、決まって「それを覆い隠す」という反応を続けます。私たちはしばしば嘘をついたり他者を非難したりすることで、自分たちの犯した間違いから来る罰を避けようとするのです。

羞恥心を持ち、そしてそれに覆いかぶせる人間に対して、神様は自身の公正さ、憐れみ、そして恵みを現します。神様は私たちを探すのです。「あなたは、どこにいるのか。」と——それによって私たちは自分の行いが間違いであったことに気づくことができます。神様はアダムとエバにその行いが重大な結果を招いたこと、そして罪が神様と私たちを引き離したことを示しました。しかしながら、神様は憐れみのゆえにいちじくの葉のかわりに皮の衣（すなわち、後に起こるイエスの十字架での完全ないけにえの象徴となる最初の犠牲の血）を与えたのです。

私たちの行いに関わらず、神様は私たちを見つけ出そうとします。私たちが隠れることをやめ、唯一の完全な覆いであるイエス・キリストが必要であることを認識できるのは、ひとえに神様の恵みによるものです。私たちの罪の結果を、イエス様が受けてくださいました。そしてその代わりに、私たちは「キリストをその身に着た」のです(ガラテヤ 3:27)。私たちが完全に恥じることなく神の御前に出ることができるための唯一の方法は、イエス・キリストなのです。

応答しましょう

1. 羞恥心を覆うためにどんなものを使ってきましたか？（どれだけのことを達成したか、どれだけ周囲から人気があるか、どんな物を所有しているか等）
2. 自分の人生において、まだ恥を感じる部分がありますか？ それらを神様に告白し、自分が神様に罪を犯したことを認めましょう。
3. イエス様が十字架であなたのためにしてくださったことを理解したときに起きた変化を3つ挙げましょう。

祈りましょう

1. 神様から悔い改めるように示されたことがあれば、へりくだって神様に赦しを求めましょう。立ち返る者にはいつでもその御手をのびし恵みと赦しを与えてくださる神様に感謝しましょう。
2. 神様の御前に恥じることなく出て行くことを可能にする福音の力をまだ経験していないゆえに、神様の御前に出て行くことのできない家族、友人、クラスメイトのために祈りましょう。彼らが罪という現実、そしてイエス様の十字架での犠牲に目が開かれるように神様に求めましょう。

DAY 2 · AUGUST 6

福音を恥じないということ

読みましょう：ローマ 5 章

1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいきます。3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

ローマ 5:1-5

じっくり考えてみましょう

イエス・キリストの福音を信じたならば、私たちは必ず変わっていきます。私たちが縛る死のとげ、すなわち罪からの解放を確信するのです(1 コリント 15:55、ローマ 6:18)。ですが、福音はどのようにして私たちの実生活に当てはまるのでしょうか？ キリストにある新しい人生とは、いったいどのような意味なのでしょう？ ローマ 5 章では、私たちが福音のゆえに何者であり、何を持っているのかをみることができます。

まず、私たちは神様の目に義なる者とされました。神様は聖く、ゆえに罪がその中に存在しえる余地はありません。アダムを通して罪が世界に入ったとき、それはアダムのすべての子孫にこの罪が受け継がれるようになりました(ローマ 5:12)。すべての人は罪を犯したので、罪から自分自身を救い出せる力のある人はひとりもいません(ローマ 3:23)。しかし人にとっては不可能なことが、神のひとり子であるイエス・キリストの完全な従順による犠牲を通して可能になったのです。イエス様のゆえに、私たちは神の目に聖く義なるものとされたのです。

次に、私たちは神様と和解し、また神様との関係において平安がもたらされました。罪は私たちが神から引き離し、神に敵対する者となりましたが、イエスの死が私たちが神様のもとへと引き戻したのです(ローマ 5:10)。そしてイエス様が神様と私たちとの関係を回復したことを知っている私たちは、今では神様の御前に大胆に出ることができるのです。

また、神様の恵みを受け取れる道が開けました。神様の恵みを受け取るというのは、つまり私たちが受けるに値しない恩を受けるということです。私たちが受けているこの恵みは私たちの行いのゆえに与えられるものではありません。私たちはそれを受けるに値することを一切行ってはいないのです(ローマ 11:6)。それはひとえにイエス様の十字架での贖いの御業による贈り物なのです(ローマ 3:24)。恵みは、私たちが弱いときに力づけ、また助けてくれます(2 コリント 12:9、ヘブル 4:16)。

そして、私たちはキリストにある希望を体現する者とされました。この希望は私たちが人生の困難に直面しているときでも、喜ぶことを可能にします。それだけでなく、これから起こることに対しても、それが私たちの品性を練るものだとして信じて忍耐することへと導くのです。そしてこの希望は、私たちをこの地上での人生やあるいは死後の世界のおいても、私たちに恥じる者とさせないためのものなのです。それこそが、この希望が私たちを惹きつける理由なのです。世は私たちに同意せず、戦いを挑んでくるでしょう。それは私たちの信仰ゆえにです。そして私たちは困難に直面していくでしょう。しかし私たちは、福音を通して与えられた「力強い神様が私たちの味方であり、敵ではない」という確信から、怖気づく必要がないのです。(ローマ 8:31) 神様はいつも私たちに対してよい方で、完全であり、そして永遠に神様と過ごすという贈り物をくださいました。

応答しましょう

1. いま直面している困難は何ですか？ そのことに対して今日、あなたが希望と勝利を体験することをキリストの御名によって宣言しましょう。
2. 今の状況において、あなたがキリストにあって抱えている希望は何ですか？ どのようにして常にその希望に固く立つことができるでしょうか？ また日々その希望を告白していくことができるでしょうか？
3. 神様が福音を通して約束していることを完全に受け取るために、対処する必要がある心の問題(恐れ、無力感、不安)は何でしょうか？
4. 困難のときにいつでも宣言できる聖書箇所を、少なくとも5つ覚えましょう。

祈りましょう

1. 自分が救われたこと、そしてあなたのためにイエス様が十字架でくださったことを感謝しましょう。
2. 福音のゆえにあなたに与えられている希望をより深く知るために、対処される必要のある心の問題を示してくださるよう聖霊様に求め、祈りましょう。
3. 神様がご自身を現すためにあなたの人生が用いられるよう祈りましょう。

DAY 3 · AUGUST 7

イエスのゆえに恥じないということ

読みましょう:ヨハネ 4:4-42

28 女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。29「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょうか。」30そこで、彼らは町を出て、イエスのほうへやって来た。... 39 さて、その町のサマリヤ人のうち多くの者が、「あの方は、私がしたこと全部を私に言った。」と証言したその女のことばによってイエスを信じた。

ヨハネ 4:28-30,39

じっくり考えてみましょう

サマリヤの女は理想とは程遠い人生を送っていました。まず、彼女は女性でした。当時のサマリヤでは女性は下級市民として扱われていました。男性の所有物か、よくてその少し上の扱いしか受けていなかったという見解もあるほどです。

それだけでなく、彼女はサマリヤ人でした。この地域において、サマリヤ人はサマリヤ人以外とは一切関わることはしませんでした。そして最後に、彼女は男性との関係において失敗してきた過去がありました。

そんな彼女の人生を考えれば、彼女が苦々しい思いを抱え、不安定で、さらには自分の人生にはよいことが何もないとまで考えていたとしても不思議ではありません。聖書には、彼女が昼どきの暑さの中、水を汲みに来たと書いてあります。このことは、朝に水汲みにやってくる多くの女性たちを避けていたためだと考えられます。そのような状況で、彼女はイエス様に出会ったのです。

最初、彼女はわけがわかりませんでした。なぜこのユダヤ人はこんなに馴れ馴れしく話しかけてくるのだろう？ この男はこの状況をわかっているのだろうか？ 彼女はまだ彼がどれだけ状況を知っているのか、知る由もありませんでした。

最初はわけがわからないと思っていた彼女ですが、少し会話にも関わらず他人が知りえるはずのないことを言い当てるこの男に驚いていきます。男が言ったことは、彼女自身が人に言うのを恥じてしまうようなことでした。

サマリヤ人は、メシヤが来るときには、その者によっていっさいのことが明らかになると信じていました。そして目の前の男がまさしくそれをして見せたのです。

そしてその次に彼が言ったことが、彼女の人生にも、また聖書においても重要な意味を持つこととなります。このときイエス様は、はじめて自分がメシヤであることを人に示したのです。なぜこの理想とは程遠い人生を送る女性に、自分がメシヤであることを最初に示したのでしょうか？なぜ他の人ではなかったのでしょうか？

私たちにはその理由を想像することしかできません。しかしこの女性について考えてみるならば、自分を満たすものがおそらく何もなかった人生の中で、彼女は自分を満たすものを求めていました。しかし、それが何であるかを知らなかったのです。そこにイエス様がやって来て、ありのままの自分に対して、自分自身を乾くことのない生ける水として与えました。

満足できる何かを捜し求めているときに、イエス様に会ったという人たちもいれば、人生のどん底でイエス様に会った人もいます。

このサマリヤの女のように、私たちにはなぜその時、その状況でイエス様がご自身を自分に現したのかはわからないでしょう。しかしながら、イエス様がそうしたのには重要な意味があるということは確かです。サマリヤの女のメシヤと出会ったことを町全体に伝えるという応答を見ると、彼女に対しなぜイエス様があの状況で自身を現した理由をみることができます。

キリストに出会うとき、私たちの人生は変えられます。自分のすべてを、どんなことも知っていながら、それでも私たちへの愛のゆえに自らを捧げてくれる人がいるということがどういうことかを、私たちは経験します。そしてイエス様が私たちにしてくださったことすべてを考えるならば、それに対する唯一の応答はそのことを皆に伝えることです。サマリヤの女とイエス様との出会いによって起こったことは単に彼女の人生の贖いだけでなく、彼女の町の多くの人の贖いでした。

サマリヤの女のストーリーに、私たちは神のご自身の民に対する計画を垣間見ることができます。イエス様は私たちの過去の罪や恥を取り去り、私たちを新しくしてくださいました。そしてそれは自分がそれを得るためだけではなく、家族が、キャンパスが、そして自分の住む町が贖われるためなのです。

応答しましょう

1. イエス様と出会ってから、あなたの人生はどのように変わりましたか？
あなたが一番感謝していることは何ですか？
2. キリストを知る前は、どんな問題に苦しんでいましたか？
キリストはどのようにそれらの問題からあなたを贖いましたか？思い出して、神様があなたの人生における贖いが今なお続いていることに感謝しましょう。
3. 証を他の人に伝えたことがありますか？ ある場合、その証からどのようにして福音を伝えることにつなげていくことができますか？ ない場合、そうできないおもな理由はなんですか？ どのようにして、キリストがあなたに何をしてくれたのかを大胆に伝えることができますか？

祈りましょう

1. 日々の生活において他の人と関わる中でどのようにしていたらよいのか、
聖霊様の導きをはっきりと聞くことができるよう祈りましょう。
2. キリストがあなたの人生に何をしてくださったかを伝え続けることにおいて、また福音を伝えることやキリストの力を彼らが体験できるよう導くことにおいて、大胆さを持ち続けていくことができるように祈りましょう。

DAY 4 · AUGUST 8

神を恥と思わない: 代価の大きさ

読みましょう: マルコ 10:17-31; ピリピ 3:7-9

21 イエスは彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」22 すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。

マルコ 10:21,22

それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあかたと思っています。

キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです。

ピリピ 3:8

じっくり考えてみましょう

直感的に答えてください。あなたの所有するものの中でもっとも大切にしているものはなんですか？ それを手放すように言われたら、どのように感じるでしょうか？

マルコの福音書に登場するこの若い金持ちの男は、成功、富、そして家柄など、人が望むものをみな持っていました。そして、若いときからすべての律法を守ってきました。彼がイエス様に訊いたのは、彼の人生に唯一欠けていると思えたもの——永遠の命についてでした。それを受けてイエス様は「あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります」と言って、この若者に欠けたものを示し、そのうえで「わたしについて来なさい」と言いました。するとこの若い資産家はこのことばに顔を曇らせました。自分の富を手放すことができなかつたのです。

この若者に欠けていたのは律法の遵守ではなく、すべての富に勝る神への愛でした。彼とイエス様のやりとりは、彼の神への献身が完全ではなかつたことを示しています。彼は律法の遵守ゆえに自分を永遠の命を得るにふさわしい者と思いましたが、それだけでは足りなかつたのです。彼は自分の財産を売り払うことが永遠の命への条件だと知り、それでは割に合わない判断し、結局イエス様に従いませんでした。

この若い資産家のように、私たちはイエス様に完全に従うことと、自分の願いとの間で葛藤を覚えることがあります。家族やクラスメイト、友達に受け入れられることをイエス様への従順に優先させてしまうことがあります。居場所がないと感じたり、何かを失ってしまうかもしれないという思いから、本当は言いたくないことを言ってしまうたり、行きたくないところに行ってしまうたりします。目の前の益のために、イエス様に従うことを妥協してしまうこともあります。

イエス様に従うためにはその代価を払わなければなりません。そして福音を知ることだけが、何があってもイエス様に従うことを可能にします。福音を通して、私たちは地上においても天においても、イエス様だけが私たちが経験しうる最高のものであることを悟るのです。周囲の承認よりも、イエス様の愛が自分を満たしてくれます。神様の臨在により、私たちは満たされ、喜ぶことができます(詩篇 16:11)。これらのことを知っていくことで、私たちが望むすべてのものはイエス様にしか見出すことができないことを学んでいくのです。

救いの賜物が値なしに与えられるのは、ひとえにイエス様がその命をもって代価を払ってくださったからです。その代価は私たちが一生をかけても払いきれないものです。イエス様はその代価の重みを理解し、そのうえで自らの命をもってそれを払い、そして永遠の死から私たちを救い出してくださいました。イエス様は自らが私たちのためにすべてを与えることで、イエス様に従いたいと願う者のしななければいけないことを定めました。使徒パウロがそうしたように、福音について思いをめぐらし、キリスト・イエスというもっとも優れた賜物を得るために、私たちはすべてのものを捨てる苦しみを通ることを選ぶではありませんか。

応答しましょう

1. 若い資産家の話をきいて、何を思いますか？

今の生活の中で、イエス様よりも優先してしまうもの(物質的な所有物でも、または承認、拒絶への恐れなど精神的なものでも)は何ですか？ イエス様を最優先にするため、今日できることをひとつ挙げてください。

2. イエス様に従うために犠牲にしたと感じているものは何ですか？ そのような状況にあっても神様がすべてを支配する力があり、また実際そうしていることを神様はどのように示しましたか？

祈りましょう

1. 神様に、自分が神様よりも優先していることが何かを示されるように祈りましょう。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして神を愛し、また従っていくことができるよう恵みを求めましょう。
2. 神様に従う人生を歩み始めてから得たすべてのことに感謝しましょう。

DAY 5

逆境の中で神様を恥じない

読みましょう：使徒の働き 16:16-34; ヨハネ 16:33

25 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。26 ところが突然、大地震が起こって、獄舎の土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みな鎖が解けてしまった。

使徒の働き 16:25,26

じっくり考えてみましょう

パウロとシラスは忠実なクリスチャン、忠実な宣教師でした。もしキリストへの従順度で生活の快適さが決まるとしたら、彼らは一二を争う快適さであったことでしょう。しかし、彼らに起こったことは全くそうではありませんでした。犯していない罪に問われ、怒った民衆に打たれ、牢屋に入れられました。クリスチャンでいることは快適な生活を保障するものではないのです。

パウロとシラスは文句を言うのではなくて、神様に祈って歌って賛美をしていたのです。明日処刑されるのか、牢屋の中で衰弱死するのかわからない状況で神様を賛美することを選びました。極めて難しい状況のもとで、イエスキリストの中には平安があることを示しました。

当然、一緒にいた牢人たちはその賛美を聞くほかありませんでした。叩きのめされた宣教師二人が、不当な苦難を与えた神様にどうして喜びを持つことができたか、不思議に思ったことでしょう。みんながみんな、パウロとシラスのように牢獄に入れられるわけではありませんが、学校や家庭で厳しい態度や迫害に対面するとおもいます。このような時、周りの人は私たちを見ています。私たちの反応は、私たちが語るイエスキリストについての証となるのです。

パウロとシラスは、神様には困難を最初からなくすることはできるけど、そうはしなかったということを知っていました。神様が状況をコントロールしていて、この展開に理由があることを信頼していました。最終的に、神様はパウロとシラスを救うだけでなく、看守とその家族にキリストのことを伝えることを目的としていたことが顕になります。

私たちは人生の中で揺り動かされることを経験しますが、これらはすべて神様の目的、神様の栄光のために使われることができます。一番大事なことは私たちの救いではなく、キリストの福音が伝えられて神様に栄光が帰されることだということを思い出しましょう。

応答しましょう

1. 今どうやって揺り動かされていますか？状況に関わらず神様に喜び、信頼を置くことができますか？それはなぜですか？
2. 神様への信仰のためにどんな挑戦や対立を経験しましたか？どのようにしてこの経験が神様の目的と栄光のために使われると思いますか？
3. 今週家族、クラスメートあるいはお友達に証をシェアしましょう。神様が自分の過去の困難を神様の目的と栄光のために使ったことに注目をおきましょう。

祈りましょう

1. 神様が良い方であることに感謝しましょう。いい時も悪い時も、神様がそばにいて、状況をコントロールしていることを賛美しましょう。
2. 今ある困難が家族とクラスメートのための証になるように祈りましょう。
3. 自分の国、また世界中で福音のために苦難にあっているクリスチャンのために祈りましょう。

DAY 6

迫害の中でも神様を恥じない

読みましょう: 使徒の働き 17:1-15; ペリピ 3:8

2 パウロはいつもしているように、会堂に入って行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。3 そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明し、また論証して、「私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです」と言った。4 彼らのうちの幾人かはいよいよわかって、パウロとシラスに従った。またほかに、神を敬うギリシヤ人が大ぜいおり、貴婦人たちも少なくなかった。5 ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして搜した。

使徒の働き 17:2-5

じっくり考えてみましょう

このお話の直前に、大きな地震によって牢獄の扉が取り壊され、パウロとシラスは脱獄したばかりでした。彼らの友人のリディアを訪問した後、テサロニケに向かって出発し、その会堂で福音を宣べ伝えました。(使徒の働き 16:40-17:1)

ギリシヤ人と女性の一部は福音を信じましたが、同時にユダヤ人はそれがもっと妬ましくなりました。やがて怒りに満ちた暴動が起こり、パウロとシラスにおもてなしをしてくれたヤソンというクリスチャンとその家族が危険にさらされました。

テサロニケで立ち向かった怒りを体験しても、パウロ一行は福音を伝えることを辞めませんでした。ベレヤに移ってそこでもユダヤ人の会堂で福音を伝えました。福音はベレヤの人々に受け入れられたが、平和は長もちしませんでした。テサロニケから暴動を起こした人々はパウロたちを追いかけて、弟子たちはまた移動をしなければなりません。パウロはアテネでシラスとテモテが来るのを待っていた時間を無駄にしないでその場所でも福音をのべました。

使徒の働き 17 章では、パウロと彼と一緒にいた弟子たちは、彼らが福音を伝えた町をめっちゃめっちゃにした、2回連続の迫害を受けました。ここで注目したいのはパウロたちの反応です。彼らは福音をそれぞれの町で一生懸命伝え続けました。ある特定の町で福音が受け入れられていたら、そこに少しだけ長く留まり福音を伝えました。拒否を受けたり迫害されると、他の町に移動してそこで福音を伝えました。どれくらい迫害をされたとしても、福音を伝えることを止めることはできませんでした。また迫害をされると次の町にすぐに移動しました。

あなたは自分の信仰のゆえにいじめられたり、バカにされたり、拒否されたりしたことはありますか。聖書の中でもパウロは特に幅の広い迫害を受けた一人です。怒りで狂った民衆に追いかけられ、ローマで裁判にかけられ、また牢獄に入れられました。これらのことをされても、一生懸命自分の信仰を宣言し続けました。

そして一番注目すべきところはパウロ自身の救いの証です。キリストに出会う前は、その時代で尊敬されて心地よい人生を送れるような運命の性質を全て持っていました(ペリピ 3:4-6)。イエス様に全てを捧げ、福音を伝えることに人生を捧げて歩むことを決断したパウロは、世の中の的に考えると、全てを失った人生だと思われる

した。しかし、ピリピ 3:8 ではパウロはキリストに出会って得たものと比べたら、失ったものは無に等しいと書いています。

永遠の視点で考えると、キリストに出会うことは私たちにとって最も良いことで得をしています。様々な形で迫害をされても、この人生で神様を恥じない人は皆神様からも恥じない人になるという神様の約束から力をもらいましょう。(ルカ 9:26)

応答しましょう

1. 他の人に対して自分の信仰についてどれくらいオープンにしていますか。今週から始められる、誠実に、そして妥協をしない人生の歩み方の方法を3つあげてみてください。
2. 人から迫害をされたとき、あなたはどのように反応しますか。パウロの話をもとに、どのように反応するべきだと思いますか。
3. 人生の様々な状況や場所において、もっと自分の信仰についてオープンにならなければいけないのはいつ、どこですか。この次の数カ月でその場所で神様の証人になれることに集中しましょう。

祈りましょう

1. キリストにある命において人生を歩むことができるように勇気づけられるように祈りましょう。
2. 人の人生に自分を通して神様の愛を示すことができるような機会がもっと与えられるように祈りましょう。

DAY 7

福音を恥じない

読みましょう: ガラテ 3; ヤエペソ 2:1-9; ローマ 1:16; 4:16

25 しかし、信仰が現れた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。26 あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。27 バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。

ガラテヤ 3:25-27

8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行いによるものではありません。だれも誇るものがないためです。

エペソ 2:8,9

じっくり考えてみましょう

私達が結束して、私達の周りの人々に福音を伝えるのは私達自身が福音の力に確信を（納得して自信を）持っているからです。

自分達の気分を楽にするためとか、そうすれば良心が痛まないから、というだけではありません。

福音は信仰を持ってそれを受け入れる者には救いと、解放をもたらす贈り物なのです。

この事により、私達は福音という知らせを恥じないでいることができるのです。

贈り物

世の中は、「生きていくためには一生懸命働け」と暗に私達に教えます。代価なしで、無料で得られるものなどないと。私達はいつも自分の事は自分でやっていたらいいから。

しかし全く反対に、聖書には、救いはイエス様が私達の罪の代価を十字架で払ってくれたために私達はそれを受け取り楽しむことができる。と書いてあります。

私達はどんなに良い行いをして、それを得ることはありませんでした。

救いは神様からの贈り物だからこそ、私達は神様の臨済の中に入るための許可を頑張って得ようとする必要はないのです。

これに対して、私達は感謝をすること、神様の目的のために自分達自身を使っていただくための準備をすることができます。

救い

イエス様が死に勝利なさったことも、福音のメッセージの1つです。

死ぬということは、私達の人生にある全てのものは有限で、それらは全て、いつかは私達から取り上げられてしまうということを意味します。

しかしイエス様が十字架で死なれたとき、イエス様は私達に終わることのない希望を与えてくださいました。

永遠をイエス様と過ごすことができるように招かれているのだと知ることができたとき、私達の希望は一新します。

福音は私達が受けることのできる最も素晴らしいニュースです。

それは今と、これからくる将来において神様が共にいてくださるという保証でもあるのです。

全ての人に。

私達が誰で、どこから来て、何をしたかに関わらず、救いは悔い改め、それを信仰によって受け取る者に与えられます。（ローマ4:16）使徒行伝 10:34,35節には、神様はえこひいきなどなさらずに神様を恐れる者には誰にでも恵みを増し加え、喜んで迎えてくださると書いてあります。

救いは全ての人に対する神様のご計画だということをもっとよく理解することで、私達はもっと国際的に、広く福音を分かち合うことができます。

もし私達が福音の力に確信を持っているなら、神様の失われた魂への想いと、私達へ持っておられる計画という光の中で、福音の価値を見つめ直すことができるでしょう。

福音を伝えるのに「若すぎ」たり、「経験が無すぎ」ることなど無いのです。

私達は全ての人が福音を聞く権利があるのだと強く信じているからこそ、伝道し続けるのです。

応答しましょう

1. 今まであなたはどのようなもので自分の恥を隠そうとしてきましたか？（人気ですか？何かを達成したり、所有することによってでしょうか？）
2. あなたの人生でまだ恥じてしまう部分がありますか？あるならばそれらを告白し、神様に対して罪を犯していたことを認めましょう。
3. 自分のためにイエス様が十字架でしてくれとことを理解したとき、あなたの人生で変わった3つのことを挙げてください。

祈りましょう

1. もし神様が悔い改めるべきことを示してくださったなら、へりくだって赦しを求めましょう。立ち戻る者にはいつも恵みと赦しを増し加えてくださる神様に感謝しましょう。
2. まだ福音を知らず恥の中にいる、神様を知らないでいるあなたの家族、友達、クラスメイトのために祈りましょう。彼らの目が開かれ、罪の現実と十字架でのイエス様の犠牲を見ることができるよう神様に求めましょう。

福音の力を恥じない

読みましょう: ローマ 1:13-16; ピリピ 3:3-10; 1 コリント 9:16-18, 23

16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。

ローマ 1:16

じっくり考えてみましょう

パウロはローマ人の信徒たちに会いたいことを伝えて手紙を書きます。パウロは、ローマの教会は開拓していませんでしたが、福音を伝えたい強い意思がありました。しかし、彼はなぜそれほど福音をその地域に語りたかったのでしょうか。今日のデボーションでは、彼が福音を伝えたかった三つの理由について見てゆきます。

私たちが救う福音の力。

パウロは福音が救いの力であることを個人的に経験し、実感していました。福音を信じること以外には誰も救われないと彼は認識していたのです。どれほど特権が与えられ、成功し、ルールを守り、才能や見た目に優れていても、これらは決して私たちの罪から贖うことはできません。ですが、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれて、罪の報酬である死から救ってくださいました（ローマ書 5:8）。福音の力を体験したパウロは、これについて語らずにはいられなかったのです！

私たちを変える福音の力。

イエス様と福音の力に出会う前のパウロは、まさに「ヘブル人の中のヘブル人」というべき人物でした。教会を被害し、一方で立法を完璧に守り、それによって周りからは義の人と見られていました。（フィリピ人への手紙 3:5-6）しかしパウロは、イエス様とのダマスカスへの道での劇的な出会いのあと、この世的なものに信頼は置かなくなります。なぜなら、キリストへの信仰のみによって義になれることが分かったのです。彼の人生は教会を迫害するものから福音を宣言するものに変えられたのです。この刺激的な出会いのすぐあとに、彼はイエス様について宣言し始めました。（使徒の働き 9:20）

私たちを動かす福音の力。

パウロは異邦人に福音を語る召しを与えられたので、語る義務があったのです。しかしそれはただの義務ではなく、福音を通して人々の人生が変えられると彼は分かっていたのです。パウロはこのように宣言しました：福音を語らなければならない！

同じように、私たちも福音を友達、クラスメイト、先生たち、敵たち、そして知らない人にも語れます。福音が私たちが救い、イエス様のようにになれるよう、変化できることを体験したからです。この福音の力こそが、私たちの中で動き、周りに福音を語る原動力となるのです。

応答しましょう

1. あなたの人生は、変化をもたらす福音の力の証となっていますか？
2. 福音を聞いて、その力を体験する必要がある家族や友達がありますか？今週、その人たちにどのように福音を語りますか？

祈りましょう

1. 今週、家族や友達が福音による救いの力を体験できるよう、心が開かれる機会のために祈りましょう。
2. 自分が体験した福音の救いの力に対し、神様に感謝しましょう。人生の中で福音の救う力をもっと深く実感できるように祈りましょう。

神様からの召しを恥じない

読みましょう: 2 コリント 5:11-21

19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

2 コリント 5:19-20

じっくり考えてみましょう

使節は権利と名誉の立場を持っています。もしあなたが使節であるとしたら、それはあなたが所属している家族や団体を代表するために選ばれたということです。そしてあなたと出会う人の中には、団体の代表者のあなたにしか会えないかもしれないのです。キリストのための使節となるということは似たような者です。

私たちは神様を代表する者です。

神様を代表するというのは、全世界が見る「神様の顔」となることと同じなのです。私たちの家族やクラスメイトにとっては、私たちが一番、福音に近い代表者にあたるかもしれません。私たちの言葉や行動は、周りの人がイエス様のこと知れるように導いているのでしょうか。一見難しい事ですが、イエス様のような思考で行動するように、聖霊様によって強められるよう、頼むことができます。そして神様の代表として、神様の權威に従わなければならないのです。そして神様を表すような生き方をしなければならないのです。

私たちは神様からの和解のメッセージを伝え続ける者として任務されます。

使節たちは、自分の国を代表し、送られた国で目的を果たします。同様に、私たちもどこへ行っても神様の目的を果たす代表者です。神様を代表し、神様からの和解のメッセージを広めます。このメッセージこそが、福音の心なのです。神様と和解する唯一の手段は、イエスキリストにあるのです。

私たちは世に送り出されます。

パウロの手紙には、神様は全世界と和解すると書かれています。私たちはこの世同様、神様から引き離されてきました。ですが、イエス様によって、神様との和解を得て、国籍を天に置くことができるようになりました。（ピリピ人への手紙 3:20）この世にいながら、私たちはこの世のものではありません。（ヨハネ 17:14）私たちは孤立し、自分の救いに満足するべきではありません。イエス様の犠牲は、数人のためではなく、全ての人のためにあります。私たちが行く場所全てが宣教のフィールドです。イエス様を知らない、出会う全ての人たちに福音を語る必要があります。どんな挑戦が立ちまはるかろうとも、福音は私たちの希望であり、この世における神様の使節としての任務を与えることには変わりありません。

応答しましょう

1. 成果、人気、所有物などを使って、過去の恥を隠そうとした事がありますか？

2. 人生において、恥を感じている部分がありますか？それらを神様に告白し、神様に対して罪を犯してしまったことを認識しましょう。
3. イエス様の十字架での死によって変えられた部分を3つ挙げましょう。

祈りましょう

1. 神様が示しているまだ悔い改めが必要な部分に対し、赦しを与えられるよう神様に求めましょう。神様に立ち返る者にいつも恵みと赦しを与えられる事に感謝しましょう。
2. 福音を知らない家族、友達、クラスメイトのために祈りましょう。罪の現実とイエス様の十字架での犠牲に対し、目が開かれるよう神様に求めましょう。

DAY 10

真理を語る力

読みましょう: 4-15

13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くまを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

ヨハネ 16:13

じっくり考えてみましょう

イエス様は自身のミニストリーの最後に、私たちを真理へ導く御霊を送ると約束しました。なぜ御霊は、私たちを他でもない真理へと導くのでしょうか。

世間では様々な事柄に対して様々な声を耳にします。ある声は、自分のルール、好み、そして常識だけに頼るべきだ、と推進します。またある声は、私たちは常に他人の監視下にあり、ミスに対してすぐに批評される、と囁きます。更にある声は、思いやる気持ちは自分を傷つけ、結果無意味になるだけ、と語りかけます。たるみや縛り、あるいは無意味な人生へ陥るのを防ぐ唯一の方法は、御霊に真理へ導いてもらうことです。

真理の御霊は、その名の通り全ての真理へと私たちを導きます。更に、御霊が導く真理が、御言葉に矛盾することはありません。真理を見極め、大胆に語るには、御霊に集中して耳を傾けなければなりません。真理へ導くだけでなく、御霊は、私たちが真理に基づいた人生を送れるようにしてくれます。御霊と共にいればいるほど、罪や肉の欲望に圧倒されなくなります。(ガラテヤ 5:16-17) そして、真理を軸とする人生を送ることができ、福音を通して得た本当の自由を体感できます。(第二コリント 3:17) 結果、私たちは御霊によって、周りの人に福音を述べ伝える知識を得ることができるのです。

(John 8:32). 神様の御霊無しでは、福音を知り、それに基づいて生き、そして証人になることはできません。私たちを自由へと解放した真理の力を信じ、キャンパスやコミュニティーに入ってゆきましょう。(ヨハネ 8:32)

応答しましょう

1. 何をしたら良いか分からない時、何に頼りますか？御霊はその選択肢の一つですか？主の臨在と導きを優先させる為に今日からできることは何ですか？
2. どのようにして、家族、キャンパス、そしてコミュニティーに対する主の証人となりますか？

祈りましょう

1. 御霊と共に真理に基づいて歩めるよう、祈りましょう。妨げとなっている敵の嘘を明らかにしてもらうように、主に祈りましょう。
2. 今週、キャンパスやコミュニティーへ入ってゆく中で、もっと御霊の導きに敏感になれるように祈りましょう。福音の証人となれるよう、主に大胆さと自信を与えてもらうように祈りましょう。

DAY 11

大胆に語る力

読みましょう：使徒の働き 3:11~4:14

8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。9 私たちがぎょう取り調べられているのが、病人に行った良いわざについてであり、その人が何によっていやされたか、ということのためであるなら、10 皆さんも、またイスラエルのすべての人々も、よく知ってください。この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。

使徒の働き 4:8-10

じっくり考えてみましょう

使徒の働きの1章で、イエス様は弟子たちに聖霊に満たされるまでエルサレムを出ないようにと命じました。次の章では、五旬節に聖霊がとどまり、それによって人々はそれぞれ違った異言で話した、とあります。（使徒の働き 2:4-7）聖霊のバプテスマにより、福音を語る力を与えられるのです。

ペテロはまず、異言で祈る彼らを見つめる人々に福音を語りました。その結果1日で、3000人ものが教会に加えられました。（使徒の働き 2:6-41）次にペテロは、生まれつき足のきかない男を癒し、その奇跡の一部始終を見て感心していた群衆に対して、福音を語りました。

そして人々が福音によって救われている事を聞きつけ、サドカイ人たちがやってきます。ペテロとヨハネを捕らえ留置し、エルサレムの指導者、長老、学者たちの前で取り調べを行いました。取り調べの最中、ペテロは誰の権威によって福音を広めているのかと問われます。ペテロは、イエスキリストの御名によって福音を語っている、と宣言しました。

ペテロは、一番にイエス様がキリストであると告白した人物でありながら（マタイ 16:16）、イエス様と共に水の上を歩いた時、信仰の薄れと恐れから沈んでしまった事で知られています。（マタイ 14:29-30）また、3度にわたり、イエス様を「知らない」と言った事でも有名です。（ルカ 22:54-62）ではこの元漁師であり、イエス様との関係を否定したペテロは、どのようにして大胆に、自信と知恵を持って福音を語ったのでしょうか。

そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った …

ACTS 4:8 / 使徒の働き 4:8

ペテロの発言に対しての権力者たちの反応は更に興味深いものとなります。

彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。

ACTS 4:13 / 使徒の働き 4:13

聖霊こそが私たちに福音を語る大胆さと権力を与えてくれます。通った学校、社会的地位、両親の職業、収入、どれだけ過去に失敗をしたかなどは関係ありません。福音を効果的に語れるよう、聖霊はペテロやヨハネに与えた大胆さを、私たちにも与えてくれます。

もし恐れが福音を語る妨げとなったら、聖霊の力を思い出しましょう。どこにいても、誰に語りかけていても、結果がどうであれ、聖霊は福音を語る大胆さを私たちに約束してくれます。

応答しましょう

1. 福音を語る時、何が妨げとなっていますか？それに対し、どのような考えや恐れがありますか？どのように対応しますか？
2. 福音を語る機会が与えられた時、どのように反応しますか？なぜそのように反応しますか？聖霊の導きに頼る事を習慣づけるよう、日々どのように訓練しますか？

祈りましょう

1. 福音を語る上での恐れや不安を、全て神様にゆだねましょう。力と喜びが約束されるように祈り、家族と友達のもとに救いがあるよう信じ続けましょう。
2. 今週、福音を語る相手を一人考え、聖霊から語る機会と大胆さが約束されるよう祈りましょう。
3. キャンパスやコミュニティーで福音を語る機会が更に与えられるよう祈りましょう。

DAY 12

終わりまで語る力

読みましょう：使徒の働き 7; ルカ 11:13; エペソ 6:18,19

54 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ぎしりした。55 しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、56 こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」57 人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。58 そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。

使徒の働き 7:54-58

じっくり考えてみましょう

福音を語ろうとした時、攻撃を受けた事がありますか？このような妨げは、拒絶や迫害が原因であり、周りに福音を伝える事に対する恐れを生みます。

ステパノは、自身の信仰心の強さゆえ、迫害を受け命を落とした最初の弟子です。彼は、やもめたちの世話をしよう命じられた7人の弟子の1人でした。世話のみならず、彼女たちを霊的にも養い、イスラエルの救い主はイエス様だと、語り続けました。真理を語る彼の大胆さは、のちにユダヤ人に怒りと拒絶の気持ちを与え、ステパノは神様を侮辱している、とわざと訴えるようになります。

ステパノは、拒絶されるだけではなく、最後には命をも奪われます。そんな結末が待っていようとも、彼は福音を語ることを止めませんでした。人々の不信仰を批判しましたが、同時に彼らを愛し、神様の赦しが与えられるよう祈り続けました。

私たちは、どうすればステパノのように最後まで恥じることなく福音を語るのでしょうか。聖書には、ステパノは聖霊に満ちた男性だったと書かれています。迫害の攻撃を受けても強くあれるよう、聖霊は私たちを主の喜びと平安で満たしてくれるのです。聖霊で満たされるには、ステパノのように、まず怒る群衆ではなくイエス様に目を向けなければなりません。(使徒 7:55) 同時に、聖霊が降りてくるよう、神様に祈ります。(ルカ 11:13) イエス様にある希望を持つ事で信仰を強めれば、私たちは神様から喜び、平安、大胆さ、そして力を受け取る事ができます。

応答しましょう

1. 福音を語ろうとした時、攻撃を受けた事がありますか？ステパノの話を元に、どのようにして攻撃に立ち向かいますか？
2. 福音を語る機会が与えられた時、聖霊に身をゆだねていますか？今週、どのようにして主に身をゆだねますか？

祈りましょう

1. 十字架に感謝しましょう。主の偉大さを思い出しながら、福音を語る大胆さを主に求めましょう。
2. 福音を語るべきクラスメートや家族のために祈りましょう。福音を語る機会が与えられる中で、福音をより深く理解できるよう、主に求めましょう。
3. キャンパスやコミュニティーへ福音を持って行き、拒絶や苦しみを体験しているクリスチャンたちのために祈りましょう。

キャンパスと関係をつくる：模範になる

読みましょう： 1 テモテ 4:7-15

12 年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。

≈ 4:12

じっくり考えてみましょう

誰にでも、たとえどんなに年が若くても、他人に影響を及ぼす力が備わっています。ただし、その影響力は自分たちが他人の目に映っている範囲までにしか及びません。そこで質問です。他人が私たちの生き方を目にしたとき、彼らは福音のメッセージが私たちの人生をどのように変えたかについて興味をもつと思いますか。

パウロはイエス様を受け入れる前も後も、影響力のある人間として知られています。彼は、証をすることの重要性を知っていました。だからこそ、彼は若いテモテに他の信者の模範になるよう教えました。他の信者がテモテの模範に従うと、教会全体が信者でない人たちの模範になります。第一テモテ 4 章 12 節では、私たちの人生のなかで、生きる証人になれる分野が 5 つ示されています。それは、福音を語ることば、態度、愛、信仰、そして純潔さです。

ことば。

イエス様はマタイ 15 章 11 節で「口にはいる物は人を汚しません。しかし、口から出るもの、これが人を汚します。」と言っています。その後、イエス様は「口から出るものは、心から出て来ます。」と言いました。そこで質問です。私たちの口から出ることば一つ一つを通して、人々はイエス様について知ることができるでしょうか。それとも、彼らが耳にしているのは全く別のことばでしょうか。

態度。

他の人と会ったとき、私たちはどのように振る舞いますか。第一テモテ 3 章では、私たちが良き監督になるために必要な素質が挙げられています。特に 2 節と 7 節には、人に非難されるところがなく、そしりを受けて悪魔のわなに陥らないため、教会以外の人々にも評判の良い人でなければいけないと書かれています。注意深くしていなければ、私たちの影響力は弱まり、福音を人々に述べ伝えることが難しくなります。

愛。

第一ヨハネ 3 章 16 節には、「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。」と書かれています。私たちに愛が与えられたように、私たちも周りの人に愛を与えるべきです。実際、第一ヨハネ 4 章 7 節では「愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。」と書かれています。神様が人を愛する愛し方はとても力強いものです。福音に対して閉ざされていた扉を開き、私たちを通して人々が神様の愛を感じるための手助けができるのです。

信仰。

ヘブル 11 章で聖書は、神様への模範的な信仰を表す生き方をした人々を称賛しています。彼らはあざけりや虐待にあっているとき、自分たちの身に何が起こるか分からないとき、さらには死を目にしたときにも信仰を見せました。人生の喜びと苦難に対する私たちの答え方は、私たちの信仰の度合いを映し出します。私たちの信仰がどんなときも揺るがずに確固としているのを見ると、人々はキリストの土台がいかに力強く、確かなものであるかを知ることができるのです。

純潔。

マタイ 5 章 8 節でイエス様は、「心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。」と語っています。私たちはときどき、純潔さとは行動を決定する規則であると見なしがちです。ところが、それはむしろ、神様と私たちの距離が短くなったときに起こる心の変化なのです。神様に心の支配をしていただくと、私たちは純潔さと誠実さの模範になることができ、私たちの言動を通して人々は神様をみることを後押しされます。

テモテのように、私たちは福音、態度、愛、信仰、そして純潔によって変えられることの意味を示す模範になる必要があります。信者のための模範になることは、私たちの人生が福音の変わりゆく力を見せるものとして用いられるということです。

応答しましょう

1. あなたの模範は、どのようにして福音を述べ伝えることへの扉を開いてくれましたか。
2. 以上で挙げた 5 つの分野のなかであなたの人生に適用する必要がありますか。どうやってその分野を成長させることができますか。

祈りましょう

1. ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも模範になれるように祈りましょう。神様を尊敬し、人々を神様に導く生き方ができるよう、神様に強めていただきましょう。
2. ことば、態度、愛、信仰、純潔において模範になるとき、自身のキャンパスやコミュニティで福音を述べ伝えられるチャンスが与えられるように祈りましょう。

DAY 14

キャンパスと関係をつくる：塩と光

読みましょう：マタイ 5:13-16

13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

マタイ 5:13-16

じっくり考えてみましょう

あなたがたは、地の塩です。

現代において塩は、ありふれたものであり、簡単に手に入れることができます。しかしながら、イエス様の時代には、大変高価で貴重な産物でした。塩は、わずかな量で食べ物の風味を高めることができ、大きな量を使えば食材が傷むのを防ぐことができます。イエス様が弟子たちに彼らは塩であると話したとき、彼は弟子たちが社会に対してどれほどの影響力があるかについて話していたのです。

塩を加えるのを忘れると、どんな料理でもなんだか物足りなく味気ないものに感じられます。同様にして信者というのは、そこにいなければ人々が物足りなさを感じてしまうような、影響力のある人間になるべきなのです。私たちの言動は周囲の人々の人生を味わい深いものにできているでしょうか。私たちは日々の言動によって周囲の人々を祝福できているでしょうか。

イエス様は、もし塩が塩けをなくしたら、何の役にも立たないと語っています。これは辛辣な言い方ではありますが、同時にこれらの言葉から神様がご自分の民にどのようになってほしいかを知ることができます。あなたがたは、地の塩です。これこそが私たちがなるべきものであり、これを理解すれば、日々のことばや行動に影響をもたらすことができます。実際、福音によって変えられた人間は、この世の塩にならずにはいられません。道徳の腐敗から社会を守り、その影響力を人々に感じ取ってもらうのです。

あなたがたは、世界の光です。

私たちはかつて暗闇のなかを歩いていました。私たちが秘密にしていたことはみっともなく、恥ずべきことでした。ところが、キリストの光に照らされたとき、私たちは光の子になりました。イエス様はこの世のまことの光です。良い行いによって彼のなかに留まると、神様の光をこの世に照らすことができます。そして世界は神様と出会い、神様の栄光をたたえることができます。これにより、私たちは自分自身や原因ではなく、イエス・キリストの方向を向くことができるのです。

応答しましょう

1. あなたはどのようにして自分のキャンパスやコミュニティの塩や光になることができますか。あなたの家、キャンパス、そして国で、あなたは塩や光になるためにどのような機会が与えられていますか。それらの機会を書き出し、これからの数週間でそれらに取り組んでみましょう。
2. 今現在あなたの家族または友達で、福音を必要としている人はいますか。キリストの光がその人の人生を照らすためにあなたが今週できることは何ですか。

祈りましょう

1. この世の塩と光になれる特権が与えられたことを、神様に感謝しましょう。
2. 世界中の信者のために祈りましょう。地の塩・世界の光として与えられた役割を信仰深く全うできるように、神様に祈りましょう。
3. 福音の真理を聞く必要がある国を一つ選び、その国のために祈りましょう。他の人と一緒にその国のために祈りましょう。

キャンパスと関係をつくる：マイストーリー

読みましょう：ヨハネ 3:11-24

16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。

ヨハネ 3:16-18

じっくり考えてみましょう

大学の体育教師、メイは家に人を誘って料理を作るのが好きでした。家をきれいにしてお客さんが楽しめるように努力しました。学生が家族の問題で落ち込んでいるとき彼らにミニストーリーができる機会を与えられ、それが彼女の喜びでした。デボーションで神が語られたのは家族の愛が足りない人も天のお父さんが迎えてくださって愛してくれるということでした。メイにはその気持ちが良く分かりました。彼女のお父さんが家族を捨てたという経験があったからです。そんな彼女にイエスキリストは父なる神の愛というものがどういうものか示してくれたのです。赦しに満ち、忍耐強く、親切で犠牲を払ってくれる愛です。神の愛を受けてメイはほかの人にも同じ愛を示したいと願うようになったのです。

学生はメイと時間を過ごす中で平安と愛を感じ、新鮮な気持ちになっていくのを経験しました。メイの作った美味しい料理でお腹が満たされ、心も満たされました。メイの超自然的な力が学生を魅了しました。メイは自分の父親に見捨てられたこと、それでも彼を赦すことができたことなどを話しました。学生に愛を示すことができるのはまず神がメイを愛してくれたからだということも分かち合ったのです。

メイの話は彼女の行動に合致していました。真実が彼女の人生で生きていたので、彼女と交流した学生の心にも福音が生きたものとなりました。メイを通して福音を体験したのです。

第一ヨハネでは本物の信仰は言葉だけではなく私たちの生き方、人との関わり方で示されるということが書かれてあります。必要のある人に会ったとき、私たちがまず助ける人になっているでしょうか。言葉、動機、行動が合致しているでしょうか。

イエスが私たちのために命を捨ててくれたことを考えると神が私たちも同じように人に愛を示すことができるようにしてください。イエスにつながり信仰を持ち続けましょう。自分が神の子供であることを忘れず、神の教えを守り、聖霊に頼りましょう。言葉と行動と真実で愛し続けるとき、神に栄光をもたらし、福音を伝え、キャンパスを変え、世界を変えていくことができます。

応答しましょう

1. イエス様に変えられて新しくされたライフスタイルとあなたの言葉と合致していますか。神の愛が人生に働いているという真理が発揮されるように何を今日変えたいですか。
2. 家族、クラスメート、友達の中から今週神の愛を示したい人のことを考えてください。具体的にどう愛を示すことができるでしょうか。
3. 家族、キャンパス、地域でどんな必要がありますか。どう助けたらよいでしょう。そのために自分がどう用いられて仕えることができるか、同時に神の愛を示すことができるか祈りましょう。

祈りましょう

1. 人生を変える福音に沿わない考え方や習慣を変えることができるように神に祈りましょう。
2. クラスメートに祈りの課題を聞きましょう。神の御心にかなった祈りが答えられるように一緒に祈ってあげましょう。
3. 家族、キャンパス、地域のために祈りましょう。それぞれの必要に神様が答えてくれるように、また福音によって神の愛に出会うことができるように祈りましょう。

DAY 16

コミュニティと関係をつくる：憐れみの心を持つ

読みましょう：マタイ 9

35 それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやされた。36 また、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかawaiiように思われた。

マタイ 9:35-36

じっくり考えてみましょう

私たちは マタイ 9 章で、イエスは行く先々で人々を癒したことを知ることができます。人々やその家族は、愛する人の為に代ってイエスに病が癒されるように近づいていった。この章の最後では、イエスは町や村を訪ね神の御国について教え、多くの病人を癒していました。このマタイ書のハイライトでは群衆がイエスのもとに来るのを見てどのように感じたかが記されています。

イエスは群衆を見た この時代では、イエスの力の評判は地域全体に知れ渡っていました。他の宗教指導者たちが、自分たちの善い行いを誇示する機会を持つようとしていた時に、イエスは病人を癒し、そして神の御国とはどういうものか教えていました。(マタイ 6:1). イエスにとって群衆はただの群衆ではありませんでした。イエスはひとりひとりそれぞれに必要な、悩み、試練があることが分かりました。彼らはいやがらせを受け、無力だったので、彼らを感じさせてくれる指導者が必要でした。

イエスは憐れみを感じた

イエスはゆく先々、足を止め病気の人や罪からの許しが必要な人達の世話をしました。人の子が来たのが、仕えられるのではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人の為の、贖いの代価として、自分の命を与えるためであるのと同じです。(マタイ 20:28). 疲れていても、多くの人達が助けを求めたときでさえ、憐れみがイエスを動かしました。仕えることはイエスがこの世に来た最大の理由です。

主体性を欠いた群衆が人々のニーズに応え、福音を伝えるように動かされるのを見るとわかるように、憐れみが私たちの見方(考え方)を変えることがわかります。これはイエスが行った方法を人々が見ただけのことです、イエスが私たちが彼の代理人として家族、学校、地域社会の為に私たちの心が動くことを許してくれています。

応答しましょう

1. 日々の生活で普通に会う人は誰ですか？ 今週その人たちの誰か一人にどのように関わり、彼らの話を聞くことができますか？
2. 祈りや行動の中で、神があなたに応答するよう感じている何か特別な必要があなたの学校や地域にありますか？ これらに対してどのように全力を傾けることができますか？ もし出来なければどのように彼らの必要に応え始めることができるでしょうか？

祈りましょう

1. 神がこの地に来られ、命を捨てるほどの私たちに対する神の憐れみに感謝しましょう。
2. 神にあなたの地域社会の人達の為に憐れみの心を持てるように祈りましょう。 その人たちが何をしようとして、何をしたとしても、憐れみを見ることができるよう祈りましょう。
3. 地域社会やキャンパスで助けが必要な人たちに応答する為に扉が開くように祈りましょう。 さらにそのことが人々に福音を伝える機会になるように祈りましょう。

DAY 17

コミュニティと関係をつくる：憐れみを示す

読みましょう：ルカ 10:25-37

36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」37 彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなたも行って同じようにしなさい。」

ルカ 10:36-37

じっくり考えてみましょう

善きサマリア人のものがたりは、聖書の中でも最も良く知られている箇所の一つです。イエスは永遠の命を得るためには何をしたら良いかと聞いた律法学者にたとえ話をしました。イエスは「律法にはなんと書いてありますか、あなたはどのように理解していますか」と答えました。彼は律法になんと書いてあるか答えました。「あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」イエスは彼が正しい答を言ったので彼を褒めました。しかし律法学者はこの答えには満足していませんでした、そして「私の隣人とは誰ですか」とイエスに聞きました。それでイエスは善きサマリア人のたとえ話をしました。ある男が強盗に乱暴され、道端に置き去りにされた時に、祭司とレビ人（2種類の宗教指導者）は造作なく道の反対側を通り過ぎていきました。一方、その時代にユダヤ人に迫害を受けていたサマリア人の男は傷ついた男の元に立ち止まり休む場所を提供し、さらなる手助けが必要であれば提供すると約束しました。3人の中で、サマリア人は最もユダヤ人のための救済者として候補者らしくないものでした。（イエスの支持者はユダヤ人であった）一方、その時代に、祭司とレビ人はユダヤの宗教指導者であった。彼らは隣人を愛するという律法を最も良く知っている人であったはずでしたが、イエスはサマリア人を良き隣人だと称賛しました。主の律法学者にたいする命令は、サマリア人と同じ様に行って良い隣人となりなさいというものでした。イエスは律法学者にだれを愛しなさいではなく、どのように愛しなさいと言ったのです。善きサマリア人のたとは、愛と憐れみの関係をつなぎ合わせ確かなものになっています。サマリア人が行ったように、隣人を愛することは彼らに憐れみを持つことです。本当の憐れみは行動をもたらします。イエスが律法学者に律法を質問した時に、彼の知識ではなく、彼の理解を疑わしく思いました。イエスは私たちに命を投げうるほどに愛してくださいました。イエスが私たちに憐れみをくださったので、私たちは他の人に憐れみを向けることができます。イエスのゆえに、憐れみが必要な人がだれであってもサマリア人のように憐れむことができます。クリスチャンとしての私たちは憐れみが必要な人に対して、憐れみを示す最もよい立場にいます、なぜなら私たち

は神の憐れみを経験しているからです。憐れみは私たちの地域社会へ福音を伝える扉を開き、他の人達がイエスの愛を経験し、イエスが彼らの為に十字架でなされた御業を実際に見出す始点になります。

応答しましょう

1. あなたが福音を通して経験したイエスの憐れみは何ですか？
2. サマリア人のたとえ話からイエスは善き隣人とはどうあるべきとっていましたか？ このたとえは他の人を愛することについてあなたに何を伝えていますか？
3. あなたが時間を使い、活力、援助をあたえることで気にかけてあげることができる家族、友達、学友、はいますか？ 今週何か一つ、彼らの為にあなたにできることがありますか？

祈りましょう

1. 憐れみによって、御子イエスをあなたの救いの為に与えてくださったことに対して神に感謝しましょう。経験したことがあなたの心を変え、他の人により多くの憐れみを見せることができるように習慣化するように祈りましょう。神にあなたの家族、学校、地域社会の人達に憐れみを見せる扉が開きますように、人々に手を差し伸べる機会と備えがあることを祈りましょう。
2. あなたが手を差し伸べたいと心に思っている人たちへ福音の扉が開かれるように祈りましょう。憐みの経験が神の愛がどのようなものか彼らを感じることをできるように、そして今週彼らに福音を伝えることができるように祈りましょう。

コミュニティと関係をつくる: 愛の中で互いに仕える

読みましょう: マタイ 25:31-46; 使徒の働き 2:42-47

40 すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

マタイ 25:40

じっくり考えてみましょう

イエスが、愛によって仕えることの重要性を弟子たちに語られたのは、その働きの終焉に近づいた時期でした。正しい人たちに『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、わたしが裸のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』と主は言われます。

物語に登場する正しい人たちは混乱しました。お腹をすかせた神に食べさせたり、のどの渴いた神に飲み物を上げることなどあり得るでしょうか？神を、見知らぬ人として迎え入れたり、裸だからと服を着せたり、病気を見舞ったり、牢にいるから訪ねるなどということが出来るでしょうか？イエスは『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』と答えられました。教会で援助を必要としている人々を助けるとき、私たちは愛によって仕えています。イエスによれば、これはイエスご自身に仕えるのと同じだということです。

強い教会の共同体は、周辺地域の人々や文化と強力に関わりを持ちます。使徒の働き 2 章でペテロはじめて福音を語りました。その日に 3 千人が加えられ、もといた 100 名ほどのイエスの弟子とともに、最初の教会の共同体が形成されました。彼らは、神のみ言葉をさらに深く学び、食事を共にし、愛を持って互いに仕えることに専念していました。また、すべての財産を共有し、助けの必要な人々を援助するために、個人の資産を売ることもしました。

この教会は、その地域において時間を過ごし、神をあがめ、すべての人に好意をもたれました。外部の人たちは、彼らが互いを心に掛け仕え合う様子を見ていました。彼らには教会という共同体の愛は言葉だけではなく仕え合うという行動によって表されていることがわかったのです。結果として、主が救われる人を毎日仲間に加えてくださることになりました。

この教えは両方とも、主に従う私たちは持っているもの（才能、影響の及ぶ範囲、時間やお金）を、御国を拡大するために活用する使命があることを語っています。これを表現する方法のひとつが、周りの人に仕えることなのです。

仕え合うことは、イエスの弟子であることのしるしとなります。もし、私たちがどうやって教会の共同体の中の人々に仕えることができるか分からないのなら「自分はキリストに従う者である」と言うことはできません。つまり、イエスが互いに仕え合う事はご自身に仕えることと等しいのだと仰ったとき、この「奉仕のご命令」は全く新しい水準に引き上げられたのです。（マタイ 25:40,45）仕えることは私たちのイエスへの愛を表し、他の人々にイエスの愛を表し、さらに教会の共同体の外にいる人たちに福音を語るために門戸を開かせます。

応答しましょう

1. 人に仕えることは容易い（たやすい）ですか？難しいですか？なぜですか？あなたの考え方や態度のうち、神の愛によって人に仕えるためには変わる必要があるのはどんなことですか？
2. あなたの属している共同体では、あなたが人に仕えるための門戸は開かれていますか？今日、あなたはどのようにしてそこに参加できるでしょうか？
3. 家族やクラスメイトや友達に、福音を聞く必要のある人はいますか？今週どうしたらその人を教会の仲間に入れ、福音を語ることができますか？

祈りましょう

1. 神が、私たちのため身代わりに命をささげて仕えるために独り子イエスを送ってくださったことを感謝しましょう。
2. 家族に対して、また学校で、共同体で、仕えたいという気持ちが増し加わるように神に願いましょう。
3. 人々に仕えたり福音を語ることでできる場所や機会を、創り出していくことができるように祈りましょう。

POST CONFERENCE
DEVOTIONAL

UNASHAMED

2017 CAMPUS CONFERENCE

DAY 19

弟子をつくる: 実りある者となる召し

読みましょう: ヨハネ 15:1-17

16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。

ヨハネ 15:16

じっくり考えてみましょう

私たち、イエスに従うすべての人は彼によってきよい者とされています。私たちが彼の中にとどまり、み言葉を学び、祈りによって共に時間を過ごし、その戒めに従うなら、豊かに実を結ぶと約束しておられます。それを可能にするのは、すべてのことにおいて主にとどまり、主にあって行動することにほかなりません。

キリストにとどまる 福音によって、私たちは神と、正しく且つ個人的な関係を持つことができるようになりました。クリスチャンは、自らをイエスとその愛のうちにとどまらせるべきであり、主ご自身とのみ言葉を自分のうちにとどめるべきです。(ヨハネ 15:7、9) 主に従う私たちは、福音によって自らの生き方を変えていただき、主の戒めを信頼して守りながら成長するのです。さらに、私たちは実り豊かになるため、また弟子を作るために召されました。

弟子をつくる イエスは「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び・・・」(ヨハネ 15:16) と言われました。私たちが罪から救ってくださったとき、主はそこまで終わりにしようとはされませんでした。福音は、主を知らなかった人が自由に実り豊かな人生を送るために分かち合うべきものです。神は私たちにご自身を知らせてくださった

と同時に、私たちを、人々に神の事を知らせて弟子作りをする者として選んでくださったのです。

主のうちに残る実を結ぶ イエスは「わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり…」(ヨハネ 15:16)と言われました。福音を語るのは、人数を増やすためではありません。私たちが福音を語り弟子を作るなら、その弟子が神との親密で健全な関係を築き、さらに弟子を作るのです。

私たちが出て行って弟子を作り続けると、福音を語る時に神がすでに先立って、さらに多くの人々が主を知ることができるように道を開いてくださっていることに気づき、励まされるでしょう。私たちは単に彼のうちにとどまっていればいいのです。彼を通して、残る実を結ぶのです。

応答しましょう

1. み言葉を読んで祈ることに時間をとって、イエスに従っていますか？イエスのうちにさらにとどまるために今日どんなことを始めますか？
2. 積極的に弟子を作ることを躊躇させているのはどんな思いですか？ヨハネ 15章 16節によれば、あなたが確信を持って弟子作りをすることのできる理由は何ですか？
3. キリストのこと、福音の事をまだ知らない家族や友達やクラスメートはいますか？今日、どうやってその人たちに福音を語り弟子を作ることをし始められますか？

祈りましょう

1. 主のうちにとどまるなら、私たちが実り豊かになり弟子を作ることができるという約束を与えてくださった神に感謝しましょう。
2. 神があなたを弟子を作るために選び、任命されたことを信じましょう。あなたが、主のうちにとどまって、大胆に弟子を作ることができるように祈りましょう。
3. 今はまだ弟子になっていない家族や友達のために祈りましょう。あなたが主のうちにとどまっていることにより、その人たちの中でも、弟子を作ることができるように祈りましょう。

弟子をつくる:次の世代に伝える

読みましょう: 詩篇 78

4 それを私たちは彼らの子孫に隠さず、後の時代に語り告げよう。

【主】への賛美と御力と、主の行われた奇しいわざとを。

詩篇 78:4

じっくり考えてみましょう

詩篇 78 篇は、主が自分たちのためにしてくださったことを次世代が知ることの重要性を語っています。この詩篇はイスラエルの人々に、神がエジプトの奴隷支配から彼らを救い出し、紅海を分けて脱出させ、昼も夜も雲と炎の柱で導いてくださったことを想起させる箇所です。また彼らが荒野をさまよっていたときに、岩から水を流れさせ、天からパンと肉を降らせた神の誠実さを物語っています。これは彼らが神に信頼し、神のみわざを忘れずその仰せを守るために重要なことでした。(詩篇 78:7)

後の世代に神に信頼するように伝える

神はイスラエルをエジプトから脱出させただけでなく、荒野の中を安全に導かれたのです。砂漠の中では飲み物と食べ物を与えて、それから約束の地へ定住させました。神はさらに、民を正しい心で牧し英知の手で導く指導者ダビデを興し、その群れを牧するようにされました。ご自身が常に誠実であることを、このように表してくださった神なので、望みを置き、救いの御力に信頼することができるのだということを次の世代に伝えましょう。

後の世代に神のみわざを忘れないように伝える

詩篇 78 篇には主がなされた不思議と、御力と、栄光のみ業が書かれています。(詩篇 78:4) 詩篇からだけでも、その御業を挙げたらきりがありませんが、ひとつだけ決して忘れてはいけないものを挙げるとすればそれは、神のみ業の核心である福音です。神は独り子イエスを私たちを罪から救うために十字架に引き渡されました。福音こそ、私たちが次世代に伝えることを仕損じてはならない、神の変革の御業です。

後の世代に神の仰せを守るように伝える

この詩篇は、神に信頼し神の御業を忘れずその仰せを守るために、神のしてくださったことを次の世代に語り伝えるようにとっています。私たちが神に望みを置きその救いの力である福音に信頼するならばそのとき、確信を持って戒めに従うことができることを次世代に伝えましょう。

当時のイスラエルから今日(こんにち)の福音にいたる物語は、神の私たちに対する愛と誠実の物語です。私たちは、愛と誠に満ちた神を信頼するように、主が十字架でしてくださったことを忘れないように、そしてその仰せを信頼して従うようにと、次世代に伝えることをいつも覚えているべきです。

応答しましょう

1. 詩篇 78 篇によると、イスラエルの民は何をしましたか?なぜ、神の誠実さを次世代に伝えることがそんなに大切なのでしょう?神はどのようにして、ご自身がどんな時も誠実なことを示されましたか?
2. イエスをあなたの人生に迎え入れたのはどんないきさつですか?キリストに人生を明け渡してからは、何が変わりましたか?

3. どんなふうにしたら今週あなたは、神の誠実さを証しして、家族や友達やクラスメイトを励ますことができるでしょうか？

祈りましょう

1. 神が福音をあなたに委ねてくださったことを信じましょう。神のみ言葉を権威を持って語る事ができる力を求めましょう。
2. あなたの家族、学校、教会、地域、国の中にいる、まだイエスキリストを知らない次世代のために祈りましょう。
3. あなたが次世代に福音を語れるように、神が門戸を開いてくださるよう祈りましょう。

DAY 21

次の世代の弟子作り

2 テモテ 2:1-10; 2 テモテ 4:1-8

1 そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。2 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。

2 テモテ 2:1,2

じっくり考えてみましょう

年を取って牢獄に入り死刑を待つパウロはテモテに2通目の手紙を書くことにしました。テモテはパウロの弟子でエペソの教会の牧師を4年間勤めてきました。テモテは10代のころからパウロの忠実な弟子としてパウロの第二、第三宣教旅行に付き添うなど10年以上ともにミニストリーをしました。この聖書の箇所ではパウロが若いリーダーであるテモテに2つの大切なことを思い起こさせています。

私たちは弟子を作る弟子を作る

パウロはテモテに「他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。」と書きました。パウロがテモテに人生を注いだようにテモテも人に人生を注ぐように勧めたのです。これがテモテに課せられた弟子作りの召しです。弟子作りは福音を伝えることから始まりますがそこで終わりではありません。次の世代に弟子を作ることによって自分の人生を注ぐためにはほかの弟子が弟子を作ることを教得ていかなければいけません。

イエスキリストに与えられる恵みが私たちを強める

ヘブル 13:23を見るとテモテ自身も信仰のために投獄されました。パウロはテモテにしっかり立ってよい兵士になるように勧めたのですがそれはパウロにならう者になるためではなくキリストにならう者になるためだったのです。福音を伝え弟子作りする力はイエスキリストの恵みから来ます。この恵みこそが私たちに伝える力を与え、結果として人がキリストによって救われ永遠の命を受けることになるのです。

テモテへの手紙の中でパウロはイエスキリストにある恵みによって力を受け続け、弟子を作る弟子を作るように励ましています。私たちはイエスキリストの恵みによって強められ、次の世代の弟子が自分たちも弟子を作るように教えることに専念すべきです。

応答しましょう

1. 第2 テモテ 2:1,2 はパウロがどんなリーダーだと教えていますか。続けて福音が述べ伝えられるためにどんなことをしましたか。

2. 次の世代の弟子を育てていますか。もしそうでなかったら今から弟子作りを始めたいですか。今の弟子、または今から弟子作りをしたい人の名前を挙げてください。
3. 次世代の弟子に信仰の励ましの手紙を書いて渡しましょう。

祈りましょう

1. 自分に福音を伝えてくれた人、また今自分の信仰の人生を助けてくれている人のことを神様に感謝しましょう。
2. 次の世代のリーダーを弟子作りができるように神様に祈りましょう。
3. キャンパスでリーダーになりうる人がキリストの弟子になり、その人が多くの人をキリストの弟子として育てることができるよう祈りましょう。